

北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりの現状と 今後に期待すること

令和3年（2021年）3月31日

北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議

1 趣旨

北大阪健康医療都市（以下「健都」という。）を中心とした健康・医療のまちづくりについて、国立循環器病研究センター（以下「国循」という。）、市立吹田市民病院（以下「市民病院」という。）、保健所、吹田市及び摂津市（以下「両市」という。）の医療・行政関係者等で構成する「北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議」（以下「本会議」という。）を平成26年（2014年）7月に設置し、議論を行ってきた。

平成27年（2015年）8月には、本会議における議論を踏まえ、「北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりに関する考え方について 中間報告」（以下「中間報告」という。）をまとめ、本会議に参画するすべての関係者が連携・協力して、健康・医療のまちづくりの実現に取り組んできた。

その後、健都における施設整備は着実に進み、平成30年（2018年）12月には市民病院、令和元年（2019年）7月には国循の移転がそれぞれ完了するなど、まちづくりのフェーズは、**施設整備から多様な事業主体による取組の推進へと転換**してきている。

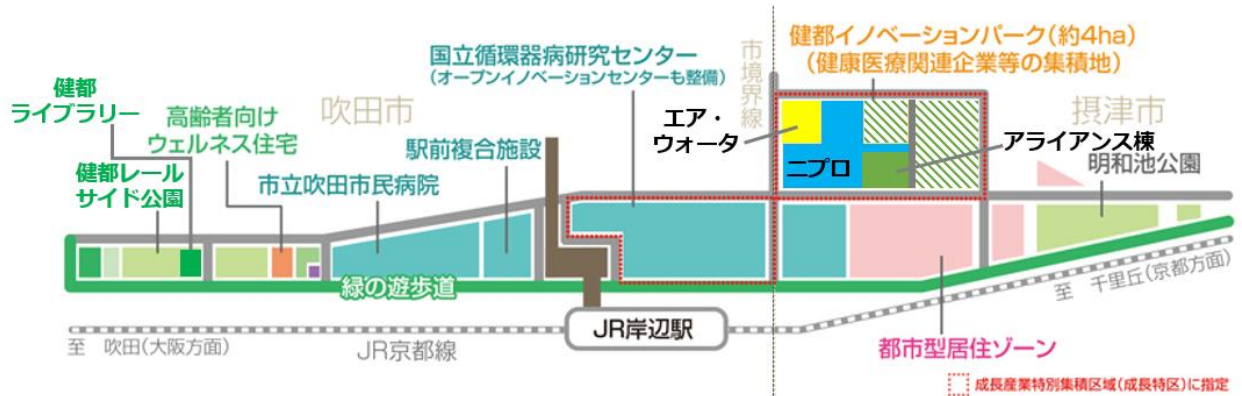
そこで、今後の取組の具体化や連携促進を図るため、中間報告の後における各種取組の進捗を整理するとともに、健康・医療のまちづくりの更なる発展に向けた本会議に参画する関係者相互の期待についてまとめた。

北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり会議 参画団体一覧（順不同）

| | |
|---------------|----------------|
| 国立循環器病研究センター | 市立吹田市民病院 |
| 医薬基盤・健康・栄養研究所 | J R西日本不動産開発 |
| 吹田市医師会 | パナソニックホームズ株式会社 |
| 摂津市医師会 | 近鉄不動産 |
| 吹田市歯科医師会 | 吹田市保健所 |
| 摂津市歯科医師会 | 茨木保健所 |
| 吹田市薬剤師会 | 吹田市 |
| 摂津市薬剤師会 | 摂津市 |

2 健康・医療のまちづくりの現状

(1) 健都



ア 施設概要・整備状況

| 施設名称 | 整備年月 | 施設概要 |
|--|--|---|
| 健都レールサイド公園 健都ライブラリー | 平成 30 年 3 月 令和 2 年 11 月 | 『気づき』『楽しみ』ながら『学べる』をコンセプトとした公園と図書館。 |
| 高齢者向けウェルネス住宅 (patona 吹田健都) | 令和元年 12 月 (順次開始) | 健康・医療・介護・多世代交流をテーマとした複合居住施設。サービス付き高齢者向け住宅、一般賃貸住宅のほか、診療所、介護事業所、保育施設、学習施設、フィットネス施設、物販店等が入居。 |
| 市立吹田市民病院 | 平成 30 年 12 月 (移転開院) | 救急患者を円滑に受け入れるための救急病棟、急性期治療後患者の身体機能回復を早期にはかるための回復期リハビリテーション病棟を設置した吹田市の総合病院。 |
| 駅前複合商業施設 (VIERRA 岸辺健都) | 平成 30 年 11 月 | 利用者が自然に健康を意識して生活が送れるよう行動を促す複合施設。物販店、飲食店、クリニックモール、フィットネスクラブ等が入居。 |
| 国立循環器病研究センター | 令和元年 7 月 (移転開院) | 「病院」「研究所」「オープンイノベーションセンター」が一体となった国立高度専門医療研究センター。 |
| 健都イノベーションパーク | ①令和 4 年春 ②令和 4 年秋 ③令和 5 年春 ④令和 5 年春 | 国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）をめざし、最先端の健康・医療関連の研究機関や企業が進出予定の企業用地。①アライアンス棟整備、②国立健康・栄養研究所移転（アライアンス棟内）、③ニプロ株式会社進出、④エア・ウォーター株式会社進出の予定。 |
| 都市型居住ゾーン (ローレルスクエア健都ザ・レジデンス ローレルスクエア健都ザ・テラス) | 平成 30 年 3 月 (順次入居) | 健康をコンセプトとした新築分譲マンション。日本初となる国循との連携サービスを導入。 |

イ 各施設における取組

| 施設名称 | 取組概要 |
|--|--|
| 健都レールサイド公園 健都ライブラリー | 令和2年（2020年）4月から指定管理者が公園とライブラリーを一体的に運営。民間のノウハウを生かした運動プログラムや健康づくりイベントを継続的に実施。 |
| 高齢者向けウエルネス住宅 （patona 吹田健都） | 軽度認知障害（MCI）の早期発見に関する医学的エビデンスに基づいたシステム・サービスの構築を目指し、国循とパナソニックホームズ（株）による共同研究を実施。 |
| 市立吹田市民病院 | 生活習慣病予防など様々な医療に関する情報発信や市民公開講座、健都クリニックモールと連携した、診療所医師向けのカンファレンス等を実施。 |
| 駅前複合商業施設 （VIERRA 岸辺健都） | 「かるしお」レシピなどの健康を意識したメニューを提供する飲食店や健康を意識した商品の提供、クリニックモール内診療所による健康講座や、施設内事業者と連携した健康イベント等を実施。 |
| 国立循環器病研究センター | 「オープンイノベーションセンター」 事業化推進や知的財産の活用・管理を戦略的に実施。 「オープンイノベーションラボ」 企業・研究機関等との共同研究を実施するための拠点 「サイエンスカフェ」 多様な企業・研究機関との研究者等の交流を促進する場。 これら3つの機能によって、オープンイノベーションを展開するとともに、令和2年12月に採択された「共創の場形成支援プログラム」（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST））も活用し、医療クラスターの形成を推進。 |
| 都市型居住ゾーン （ローレルスクエア健都ザ・レジデンス ローレルスクエア健都ザ・テラス） | ウェアラブル端末より入手した住民のバイタルデータを基に、国循が健康アドバイスを実施する「健康管理システム」を導入。循環器疾患に関する研究を実施。 |

ウ 健都の情報発信

両市は、国循及び市民病院と協力し、「健都ポータルサイト」を運営。健都に関連する情報を提供。

（2）両市における健康寿命の延伸の取組

ア 吹田市の取組

- ・ 疾病の早期発見・重症化予防を図るため、各種健診において国循健診部監修の生活習慣に着目した問診票や結果説明書の活用、保健指導など市独自の取組を実施。
- ・ 受診率が低下傾向にある特定健康診査について、勧奨効果が高いと考えられる対象者に対してアンケートや受診勧奨を行うなど、受診率の向上に向けた取組を実施。
- ・ 令和2年度から、国循、医師会、市の連携で「“健都”循環器病予防プロジェクト」を開始。市の健診受診者のうち希望者を対象に、心不全リスクスコアとBNP検査で心不全のリスクを測定し、心不全予防結果報告書の作成及び保健指導を実施。

イ 摂津市の取組

- ・平成 27 年 4 月に国循と相互の連携・協力に関する基本協定書を締結し、STOP MI（心筋梗塞）キャンペーンや特定健康診査への医師派遣等、様々な取組を連携して実施。
- ・大阪府健康格差解決プログラム促進事業（フレイル）のモデル市として、フレイル予防のための生活習慣改善プログラムを医薬基盤・健康・栄養研究所（以下「医薬・健栄研」という。）と協力して策定。市独自のフレイル予防の事業を同研究所に依頼。

（3）地域医療

ア 国循と市民病院の機能分担と連携

- ・国循と市民病院が健都の医療面における中心的な役割を担うため、高度医療機器の共同利用や医師の往診など診療科の連携、研修の相互参加などの看護師の連携等を実施。
- ・電子カルテの相互閲覧について、令和 3 年度（2021 年度）の運用開始に向けて協議。
- ・両病院が隣接することで、相互の紹介件数が増加。（国循→市民病院：571 件、市民病院→国循：385 件（令和元年度実績））
- ・国循から市民病院への重症患者の受入れ、救急対応協力に加え、市民病院から国循への医師派遣体制を整備し、連携や役割分担も促進。

イ 市域全体の病病連携・病診連携の促進

- ・吹田市では、将来の医療需要に見合った必要な在宅医療の環境づくりの推進に向け、病病連携・病診連携促進のための病院職員を対象とした研修会、医師会が実施する病院の勤務医と診療所医師との合同研修会等を通じ、市域全体の病病連携や病診連携の促進に向けた取組を実施。
- ・摂津市では、三師会が中心となって、糖尿病重症化予防事業により病診連携を促進。
- ・市民病院では、健都内の診療所や地域の医療機関との連携、入院患者の迅速な受入れを実施。
- ・国循及び市民病院では、摂津市域からの患者数増加に伴い、市域や医療圏を越えた連携が緩やかに進行。

ウ 国循を核とした地域における予防医療の実施・啓発

- ・「国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター形成に関する基本的な考え方」（平成 26 年 5 月）に基づき、国循と両市三師会等とが連携した予防医療の取組や、最先端医療・医療技術の開発と普及を実施。
- ・高齢者向けウエルネス住宅のサービス付き高齢者向け住宅において、軽度認知障害（MCI）の早期発見に関する医学的エビデンスに基づいたモデルケースの構築を目指し、国循とパナソニック（株）による共同研究を実施。

3 健康・医療のまちづくりへの期待

健都は、施設整備が完了することで「まち」が完成するのではなく、施設整備が完了した後も、**継続的に新たなサービスや連携による仕組み等が生まれてくるまちづくり**を進めていく必要がある。

そこで、「**健都の更なる発展のため、期待すること**」について、本会議でいただいたご意見を以下のとおりまとめた。本会議に参画するすべての関係者は、これら意見を受け止め、相互に連携・協働を図りながら、地域医療や健康づくりの取組等を一層進めていくことが期待される。

健都では、健都内の産学官民の多様な主体が「**まとまる**」ことに注力してきたが、これからは健都外の企業等も「**巻き込む**」ことによりイノベーションの創出の機会を拡大し、健都エリアのみではなく、市域全体に健康・医療のまちづくりを「**発信・横展開**」していくことが重要であるとする。

本会議で議論を重ねてきた取組等は、健都のみをもって完結するものではない。今後、両市における全市的な地域医療の連携体制の強化、健康づくりの推進等に向けた議論を行う場において、引き続き、こうした議論を喚起していくことにより、本会議が目的とする「**北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくり**」の実現を図ることが期待される。

(1) 健康・医療クラスターの形成

○産学官民連携による新たな製品・サービス等の創出

- ・ 共創の場形成支援プログラムにより世界トップレベルの産学連携環境の整備を行うことで、企業・大学等の継続的な流入を促進
- ・ 産学連携による研究成果の社会実装に当たっては、実証フィールド（健都レールサイド公園、健都ライブラリー、patona 吹田健都、VIERRA 岸辺健都、市民病院等）の活用に加え、市民が主体的に共創の取組に参画できる環境を整備

(2) 地域医療

○国循・市民病院の機能分担と連携

- ・ 国循と市民病院とが医療面において、引続き地域の中心的な役割を担うための機能分担及び連携
- ・ 電子カルテの相互閲覧について、令和3年度（2021年度）に稼働

○市域を越えた病診連携の促進

- ・ 健都を含む両市の医療機関や病院等と ICT を活用して患者情報を共有化し、病診連携を促進
- ・ 両市の医療機関、病院等の顔の見える関係の構築
- ・ 市域を越えた多職種連携を促進するための情報共有

○両市の三師会と国循・市民病院の学術的な連携

- ・ 循環器系疾患と歯科疾患の関連研究における国循への歯科医師会の協力
- ・ 学術講演会等での連携

(3) 健康寿命の延伸

○「くらし」にとけこむ健康づくりの実践

- ・吹田市健康寿命延伸にかかる市内基本方針」に基づき、「健康」を意識せずとも自然と「健康」につながる仕掛けづくりを進め、「自分らしく、笑涯、輝く」まちをめざし、「健康的に暮らせる環境づくり」のひとつとして、健都全体のスモークフリー（たばこの煙のないまち）を推進するため、禁煙に関する効果的な開発の検討、禁煙サポート薬局の取組等を展開

○健都の実証フィールドを活用した介護予防・フレイル対策の推進

- ・生活習慣病予防や介護・フレイル予防、認知症予防に向けた先進的な取組と、健都内の実証フィールドにおける検証
- ・医薬・健栄研と両市の連携によるフレイル対策の実施
- ・高齢者向けウエルネス住宅における多世代交流や介護予防教室の実施

○疾病予防・重症化予防

- ・都市型居住ゾーンにおける「国循健康管理システム」によるバイタルデータの分析
- ・国循、医薬・健栄研、両市三師会が連携した予防医療の取組を実施
- ・国循による最先端医療・医療技術の開発と普及、及び「先制医療」の実現
- ・両市における健診システムの充実